

＜２０２２年度（令和４年度）の事業報告書＞

【２０２２年４月１日から ２０２３年３月３１日まで】

特定非営利活動法人

居場所サポートクラブロベ

1 事業の成果

(1) 学童クラブの開設・運営事業・子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企画運営事業

学童アフタースクールロベとして、本年度も新型コロナウイルスの感染予防対策をしながらの運営となった。しかし、前年度に比べて学校の休校などもあまりなく、通常運営をすることができた。

今年は子どもたちの「生きる力」を育むため、声掛け方法や対応法などのスタッフ研修を繰り返し実施し、保育の向上を図った。また、初めてのサマーキャンプイベントを実施し、互いに助け合う心など子どもたちの成長を促した。

◎初めての泊りイベント

アフタースクールロベで、初めての泊りイベントとしてサマーキャンプを実施。ひとりひとり役割をもち、釜でご飯を炊く係、野菜を切る係、火力調整係、などなど、協力しながら 誰一人参加しない子がいないように、力を合わせてがんばった。トラブルもあったが、自分の力で乗り越えることこそが、生きる力に繋がる。



◎陽口（ひなたぐち）表を導入

陽口は、人のことを悪く言う「陰口」の対義語として、その人の良い面についての話題があがることや、その誉める言葉を指す。陽口言葉を使う習慣を子ども達に身につけてもらいたく導入。子ども達が陽口を使った際にはコーチ達が逃さずに誉め、素敵シースを表に貼っていく。陽口をつかうことにより心地よい空間作りをする。



◎カーペットを人工芝生に

みんなで協力して、床のカーペットを 全部剥がして、掃除して、人工芝を敷き詰めた。自然の中で遊ぶ環境が少ない分、少しでも自然の環境を 子どもたちに感じてほしい！人工芝ではあるが、見た目に緑が入ること、心の安定を目指す。



学 童

保育では、例年に倣い特別プログラムを実施。

① 算数・国語塾タイム、②書道タイム、③図工タイム ④心理学タイム

- ① 算数・国語塾タイムでは、無学年教材「のびのびじゃんぷ」を使用。「のびのびじゃんぷ」には学年表示がなく、ムリなくできるところから「毎回 100 点!」の自信を積み重ねながら、ステップアップする。学ぶ＝楽しいと感じてもらえる様に、子どもたちのサポートを行った。
- ② 書道タイムでは、日本習字の先生のもと、硬筆と毛筆を習う。お習字の効果は、ノートに書く字もみるみる上達していき、学習面にも良い影響が得られた。級位・段位の取得が可能となり、自信にも繋がった。
- ③ 図工タイムでは、美大出身の図工の先生のもと、図工と絵画を習った。今の時代に足りない「自由な発想力」を子どもたちに身につけてもらうことが狙い。初めは真似することから始まるが、慣れてきてからは、毎回それぞれの個性が爆発している作品が出来上がる。
- ④ 心理学タイムでは、子どもたちの「自己肯定感」と「自己受容感」を、育てるアプローチをする。この2つの力は今の時代を生き抜くために絶対不可欠な力。人と比べることなく、自分自身に自信をつけられる様にワークショップを定期的に実施。



そのほか、夏休みには流しそうめんや夏祭りイベント、秋と冬には毎年恒例のハロウィンやクリスマスイベントを実施。そして、3月最後のイベントは6年生の卒業遠足としてディズニーランドへ足を運ぶ。イベントはスタッフだけでなくボランティア講師の方も多く訪問してくれた。1年間のイベント企画を通していろんな価値観をもったいろんな世代の人たちと関わる機会を設け、子どもの市民性を育んだ。



【むすび】

今年度は子供たちの「生きる力」を育むため、スタッフ研修セミナーの導入や、現場での実践形式の研修を導入したこともあり、スタッフが更に自信を持って子どもたちに関わることができた。ただのお預かり保育ではなく、習い事プログラムの実施や多様なイベント実施により、子どもたちの笑顔も絶えなかった。保育の質の向上の成果もあり、来年度は入所人数が増加し、万博教室は1室増室して運営する運びとなった。ますますの子どもたち、保護者の皆様、関係してくださる皆様のさらなる発展を祈願しむすびとする。

学童保育支援事業

場所：TX 万博駅前ロベ、TX みどりの駅前ロベ

【キッズサポート】

ただお預かりするだけの学童クラブではなく、習い事プログラム（国語算数タイム、図工タイム、習字タイム）を日替わりで行っている。また各種イベントで経験値を積み上げ「聞く力・相手の立場や思いやれる力・思いを伝える力」を育む。

〔2〕 放課後デイサービス施設の開設・運営・子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企画運営事業

放課後デイセラキッズ

【コンセプト】 人が人を支え、快適で助け合える社会を

【理 念】 社会性を身につけ、子ども達の未来を守る

本年度も新たに問題を抱える子どもたちを受け入れ、コロナ禍に於ける衛生管理などに注意しつつ活動をした。

行政や学校、スクールソーシャルワーカーと連携を強める中で、日々新たな入所希望者が来ているのが現状。

すでに定員を満たし始めており、今後の対応が課題。

【2021年2月に開所】

小学1年生～高校3年生までの発達上の心配や難しさのある「障害児通所支援認定証」を持つ子ども達を対象に、放課後14時～19時までの保育を行う。

保護者の仕事の時間を考慮し、最大21時までの延長保育は大変喜ばれている。

送迎サービスも充実。



【プログラム】

- ★ビジョントレーニング
- ★無学年教材を使った学習
- ★運動

【セラキッズの役割と子どもたちの成長】

・小学生から高校生までの幅広い年齢と一緒に過ごすことで、年上や年下へ接し方等を学ぶことが出来る、少人数ならではの関係性を築くことが出来る。

ケンカをした時にはコーチが見守る中、自分の意見を相手に伝えたり、自分とは違う意見を相手から聞き最後には仲直りをする。人それぞれにいろいろな考え方がある事。尊重し合うことが大切であることを日々の経験から学ぶ。

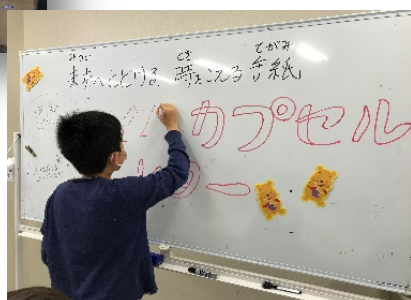
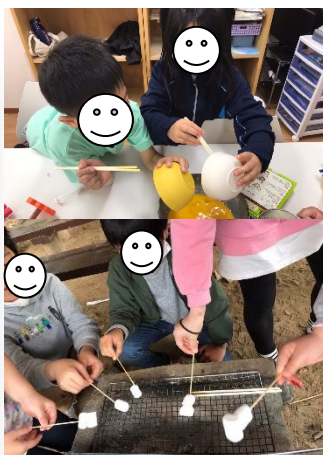
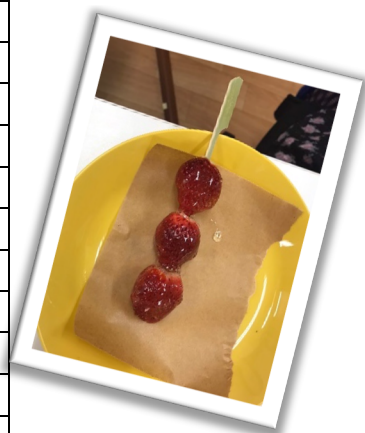
社会性を身につけるうえで重要な体験が出来ている。

【セレサキッズと地域社会、家庭との関わり】

・現在小学生・中学生・高校生の合計 24 名程度の登録があり、家庭環境に問題のある登録者も多い。
学校や地域と連携が必要で、支援会議に参加すること多い。
子どもの支援だけでなく親の支援も重要な役割を果たしている。

【セレサキッズ：2022 年度 年間イベント】

4 月	誕生会
5 月	誕生会・タイムカプセル
6 月	誕生会
7 月	誕生会・七夕
8 月	誕生会・メダカの観察・流しソーメン・音楽イベント
9 月	誕生会
10 月	誕生会・学童合同ハロウィン
11 月	誕生会
12 月	誕生会
1 月	誕生会
2 月	誕生会・学童合同豆まき（節分）・バレンタインチョコ作り
3 月	誕生会・ひな祭り



- ★ゴミ拾いで街をきれいに！
- ★工作やお菓子作りも積極的！
- ★体を動かすのも大好き！



【むすび】

大人数の中では生きづらい子ども達だが、10 名程度の少人数の中で特性と向き合い、得意分野をより伸ばし社会で生き抜いていけるよう今後も支援していく。利用者が増えてきており、資格取得者であ

る支援員の人員確保も重要となる。また、保護者の支援も引き続きしっかりとしていきたい。

(3) グループホーム施設の運営事業



2020 年度 10 月より始動した居場所ホームセラも 3 年目を迎え、A 棟本入所 4 名 B 棟本入所 3 名での 22 年度をスタートさせた。

昨年同様、一人暮らしに不安を感じて入所されている方、支援が無いと一人暮らしが心配な方達に加えて、5 月には B 棟に短期入所で 20 代の男性が約 1 か月滞在。親の虐待から避難する為にシェルターとして利用した。

A 棟の状況、5 月に 1 名退所、7 月に 50 代女性が精神疾患での入院を経て退院後の社会復帰の足掛かりとして 12 月迄入所。

R5 年 1 月に 2 回体験入所された 40 代女性が 2 月本入所になった。

B 棟の状況、9 月に 1 名退所、10 月に 50 代男性が本入所になった。

11 月 40 代男性が体験入所

2 月に 40 代女性が本入居となったが 3 月に退去し、A 棟 2 名 B 棟 4 名で現在に至る。

日中活動は、各就労施設での作業を休まず通う事、ホームでは、食事の後片付け自室の掃除洗濯等自立に必要な事を学んで、一人暮らしを目指している。

コロナ禍で月に一度のイベントも難しい状況でしたが少しずつ再開させ 5 月には庭での BBQ、6 月 10 月外食、1 月初詣、2 月カラオケを行った。

ホームの庭では家庭菜園もしており夏はキュウリ、ナス、トマト、冬はほうれん草、大根を栽培収穫して食卓に彩りを添えた。

本年度はつくば市からの要請で、小学生、中学生の一時預かりもあり子供と大人の交流もありお互いの良い刺激になったようだ。

また随時見学希望の対応を行った。

1. 体験・短期入所を実施（本入所に向けて生活を体験していただく）

① 体験入所

- ・Y,M 様（44 歳・女） 1 月 9 日～11 日・1 月 23 日～27 日
- ・E,H 様（42 歳・男） 11 月 2 泊

② 短期入所

- ・W,H 様（20 歳・男） 5 月 12 日～6 月 22 日
- ・H,R,H,G 様（8 歳・男） 5 月 1 泊、7 月 2 泊

・N,K 様 (14 歳・男) 7 月 1 泊

2. 本入所

- ・T,Y 様 (26 歳・男) R2・10 月 18 日～
- ・N,T 様 (22 歳・男) R3・1 月 1 日～
- ・A,Y 様 (29 歳・男) R3・5 月 1 日～R4・9 月 24 日退所
- ・H,H 様 (56 歳・男) R4・10 月 22 日～
- ・K,H 様 (22 歳・女) R2・10 月 31 日～
- ・N,K 様 (60 歳・女) R3・9 月 1 日～
- ・N,M 様 (58 歳・女) R3・9 月 1 日～
- ・N,M 様 (24 歳・女) R4・1 月 1 日～5 月 1 日退所
- ・M,M 様 (53 歳・女) R4・7 月 26 日～12 月 18 日退所
- ・Y,M 様 (44 歳・女) R5・3 月 13 日～3 月 30 日退所

(4)各種習い事教室の開設、運営事業

【ヒューマンアカデミー社の FC 加盟によるロボット教室の運営と翌年度の計画】

小学 2 年生から中学1年生までの生徒 9 名の生徒さんが在籍し、月に 2 回の授業で、金曜日又は土曜日にみどりの学童施設において開催。ロボット制作プログラムは、ヒューマンアカデミー社の提供する教材を用いて、モーターで動く基本のロボット制作(プライマリーコース及びベーシックコース)からタブレットで動きをプログラミングする中上級コース(ミドルコース及びアドバンスコース)まで幅広く指導を行った。各コースは規定の履修回が定められているが、アドバンスコースを修了し、卒業した生徒もいた。長時間集中することが難しかった生徒も、コミュニケーションを積極的に取りながらお互いの組み立ての補助を行い、最終的に自力で集中して進めることができるようになり、成長を感じられた。

年度途中で教室を卒業される生徒さんもいたが、年間を通じた体験授業や同法人が運営する学童と連携し、チラシのポスティングや、保護者への入会促進活動により新規生徒さんの入会につなげることができた。教室運営においては、昨年度からの LINE の教室公式アカウントを活用し、保護者の方と運営事務局側が連絡を取りやすい体制を整えていたことが、教室の安定的な運営に役立った。また、保護者の方との連絡を密にし、振替などの希望に柔軟に対応しながら継続して教室に通っていただくことができた。

また、2023年度内からヒューマンアカデミー社のこどもプログラミング教室もロボット教室と併用して開催する予定。近隣地域へのポスティングや、小学校校門前でのチラシ配布、学童保護者への告知活動を現在行っており、オープンに向けてより多くの子供たちにプログラミングの楽しさを広めて行きたい。



(5) 第三の居場所の開設、運営事業

【子ども第三の居場所 みんなのカフェ・ロベとは？】

みんなのカフェ・ロベは日本財団の助成を受け、2022 年 7 月につくば市緑が丘に子ども第三の居場所

として運営がスタート。コンセプトは孤食・孤立を避け誰一人取り残されない地域子育てコミュニティの創生。施設は屋上につながる赤い螺旋階段がシンボルで、二階建ての住居をリフォームした建物。



運営日時	月・水・金（祝日休み） 14時～20時
事業内容	カフェ 14時～ 子ども150円 大人300円 子ども食堂 18時～ 子ども200円 大人400円 学習塾 無学年教材を使い、個人のレベルに合わせ戻り学習を実施
レギュラー登録人数	19名

子供達は、与えられるだけのお客様ではなく、食事作りや、片づけ、部屋の掃除などに参加し、「生きる力」を養っている。子ども食堂はヒノキのダイニングテーブルに集まり、みんなでいただきますをして食卓を囲む。夕飯は野菜をたっぷり使った健康的なメニューを提供している。子どもが苦手な野菜であっても、調理を工夫し野菜を食べやすいようにしている。ほうれん草をペースト状にしてカレーに入れると、ほうれん草嫌いな子もおいしく食べられていた。子供達とボランティアさんも一緒に夕飯作りをしている。釣りが趣味のスタッフが釣ってきた魚を食卓に出したり、イカの下処理を子供に体験してもらったり、食育にも取り組んでいる。



【イベント開催】

季節に合わせたイベントは、夕飯をイベント特別メニューにしたり、飾りつけをして実施している。ハロウィンの時には仮装した子供達が地域住民のお宅を訪問し、お菓子を配布いただきご近所様にご協力いただいた。ひなまつりイベントではお雛様を飾ったところ、「初めて見たー」と言って感慨深げにじーっとお人形を見つめている子がいた。季節イベントを家族のように一緒に楽しむことが出来ている。

冬休みや春休み期間に講師お方を招き「お年玉講座」「生活にかかるお金」をテーマにマネー講座を開催した。光熱費や食費等、どれくらいかかるものなのか予想したり、お金を貯める時のルール等学んだ。お金について学び、使い方を考える貴重な機会となった。

春休みは美術講師を招き、図工の授業を行った。みんなで切って貼って塗って桜を作り、カフェ・ロベの壁に飾った。カフェ・ロベが桜で華やかな空間になった。



【カフェ・ロベに通う子の例】

不登校の子で家に引きこもっていた子がカフェ・ロベに来ることで外に出るきっかけとなり、友達が出来ると徐々に明るく元気になっていき、その後学校に通えるようになった。

小学六年生の不登校の子が、中学からは学校に通うと目標を立て、無学年教材でこつこつ勉強し、また自転車通学をするために、乗れなかった自転車の練習をカフェ・ロベスタッフと行い、春から中学校に元気に通い始めた。

不登校の子でも、カフェ・ロベでの日々の様子を記録した報告書を学校に提出することで出席扱いになった例もあり、学校と連携しながら子供達の支援にあたっている。

【カフェ・ロベ ボランティアの例】

子ども食堂のレギュラー利用者やボランティアさんの中には孤食に悩む方もおり、カフェ・ロベでみんなと過ごすことが居場所となっている。

ひきこもりだった 20 代女性が食事作りボランティアに何度か参加したことで自信となり、食事を作る仕事に社会復帰を果たした。

【今後の課題】

開所してからは受け入れた子どもたちに注力していた部分があり、なかなか地域へのカフェ・ロベの存在が浸透しておらず、高齢者の方の受け入れは弱かった。今後は地域に向けてのアピールも進めていく。

【むすび】

みんなのカフェ・ロベがオープンして初年度で、1 からのスタート。備品を買いそろえるのも、ルールを作るのも、ボランティアを集めるのも、献立を考えるのも、子供達を勉強に向かわせることも、イベントを企画することもすべてが手探りであった。そんな中、カフェ・ロベに通う子供達が SSW の紹介もあり続々と集まり、元気に通ってくれている。順調に運営ができたのは日本財団様をはじめ、支援にご協力くださった関係各々様やボランティアの皆様のおかげであり、大変感謝している。

【イベント開催明細】

7/29 開所式

10/15 不登校・多様な学び つながる縁日（ブース参加、相談）

10/28 ハロウィン

11/27 芋ほり

12/23 クリスマス会

12/26 マネー講座

12/28 大掃除

1/4 正月おせちメニュー おにぎり作り

2/3 節分 豆まき

2/13 バレンタイン チョコ菓子作り

3/3 ひな祭り いちご大福作り

3/13 ホワイトデー 菓子作り

3/27 図工授業

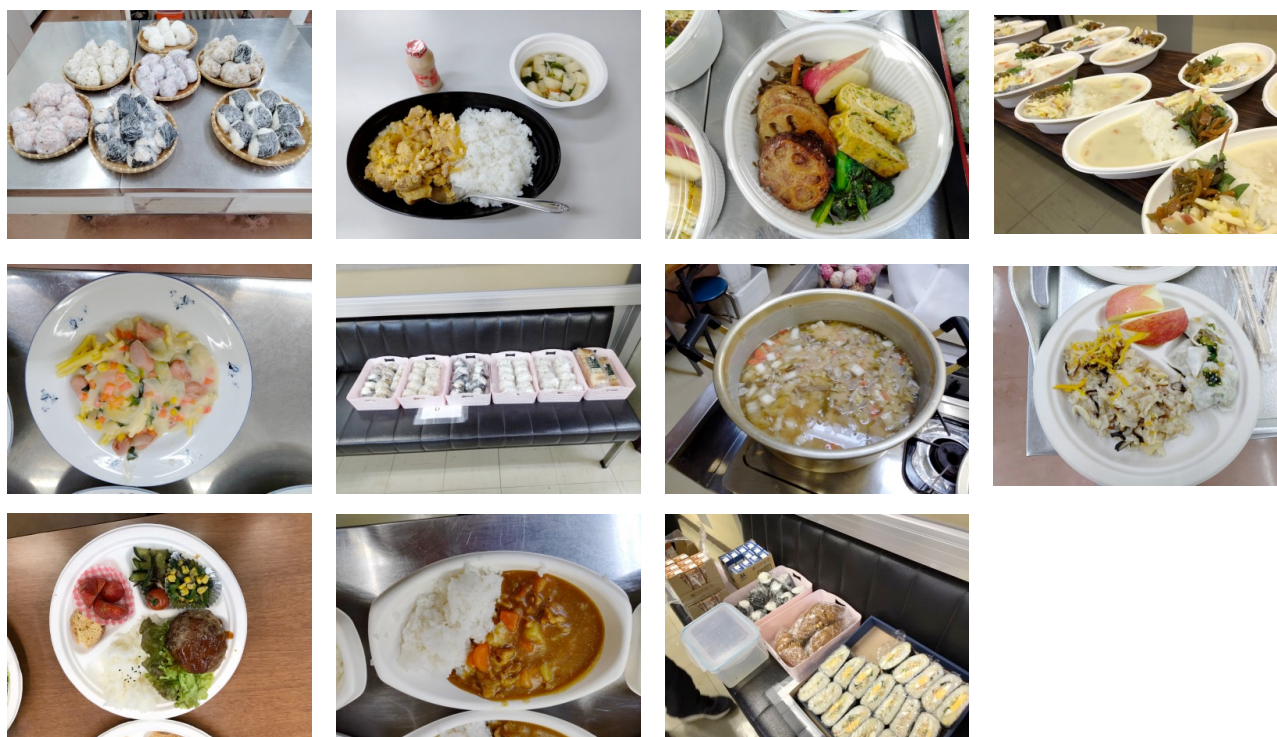
3/31 マネー講座

(6)児童・生徒の学習指導事業・子育て支援に関する相談・講座・イベントなどの企画運営事業

無料学習塾、子ども食堂の運営事業

はじめに

つくば学習会とは、経済的な理由によって学習塾参加の機会確保が難しい子供への学習支援無料塾である。これまで学習の機会を十分に確保できなかった、小学生から高校生までの児童・生徒に学習支援を行っている。令和4年度におけるつくば学習会の取り組みを下記にまとめる。



1、つくば学習会の理念と目標について

特定非営利活動法人 ROBE つくば学習会は、ROBE 理念「愛・調和・感謝」の精神に基づき、下記の目標に取り組んでいる。

- 1) 低所得世帯の児童・生徒へ、学習の機会を提供し、学力の遅れの挽回、成績向上。
- 2) 学習会での勉強や体験のなかでの自己肯定感をはじめとする非認知能力の向上。
- 3) 食、社会の支援情報、体験機会・相談機会などさまざまな方面からの包括的支援。
- 4) 1～3について、児童・生徒、家庭ごとに必要なサポートの見極めとその提供。
- 5) 1～4を通じ、学習機会損失や支援不足に基づく貧困の連鎖を食い止める。

2、実施回数と参加人数について

低所得世帯の子供たち（主に小中学生）に対する無料学習支援事業を行った。つくば市との協働事業であるつくば市青い羽根学習会として竹園教室・谷田部教室を運営した。また、自主事業として万博教室を運営した。実施回数や参加延べ人数等は以下の通りで、多少の増減はあるものの、概ね前年度と同規模で実施した。

	竹園教室 (毎週月曜日)	谷田部教室 (毎週火・木曜日)	万博教室 (毎週土曜日)	合計
実施回数	44 回	88 回	47 回	179 回
イベント 実施回数	11 回	12 回	1 回	24 回
登録生徒人数	38 人	51 人	18 人	107 人

参加生徒 延べ人数	941 人	2424 人	290 人	3655 人
--------------	-------	--------	-------	--------

登録コーチ 人数	59 人	61 人	25 人	145 人
-------------	------	------	------	-------

3、新型コロナウイルス感染症対策について

【実施、来塾の判断】

感染症対策として、塾の実施の判断は、つくば市こども未来室と連携し行った。また、学校が休校ないしは学級閉鎖になった場合は、当該の生徒は来塾させない措置をとった。

【現場での感染症対策について】

- 1) 社会的距離の確保
社会的距離を確保した座席の配置
接触機会をできるだけ避けるよう指示
以前行っていた調理室での全員集まっの会食を引き続き中止。
- 2) 職員及び受講者等の保健衛生対策の徹底
職員及び受講者のマスク着用、手洗い（手指消毒）
消毒液の設置、ごみ廃棄時の衛生管理
職員の体調管理、風邪症状がある場合の受講自粛を要請
- 3) 施設の衛生管理・換気の徹底
座席、机、テーブル、利用設備・機材等の消毒
換気設備による換気、又はドアや窓の開閉による換気
手洗い場（トイレ）におけるハンドドライヤーや共通のタオルは使用しない
- 4) 集団としての感染症対策意識の向上
感染症対策は誰かにやってもらうものではなく、自分の身は自分で守る、大切な人の安全を自分から守る、という意識づくり。

【利用施設に対して】

利用施設の取り決め通り、利用者の容態確認を随時行った。

【食事について】

子ども食堂も、市の判断に応じての実施とした。実施した際は、下記の徹底の元での実施とした。

- ・食事前の手洗い消毒
- ・密集状態をつくらないよう、各教室や廊下での食事
- ・机の除菌、消毒
- ・児童・生徒ごとの食器、箸での食事

4、つくば市協働事業の学習支援について

下記の通り、つくば市子ども未来課と連携をとり学習支援を行った。

また、現場で起きたことや生徒について、担当課はじめ、家庭相談員、スクールソーシャルワーカー、家庭相談員、未来支援員、他の NPO 団体といった各専門機関に協力を要請し、その都度問題の解決を図った。

A：竹園教室		
運営形態	つくば市子ども未来課との協働事業。 「つくばこども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。	
	小学生クラス	中高生クラス
学習時間	毎週月曜日	
	18:30～19:30	授業前半
	19:30～20:00	子ども食堂
	20:00～20:50	授業後半

指導スタイル	コーチ1人で、 児童を1人～3人 見る個別指導方式	コーチ1人で、 生徒を1人、ないしは2人 見る個別指導方式
1回あたりの 生徒の 参加人数	6～10名ほど	15～20名ほど
1回あたりの コーチの 参加人数	4～6名ほど	10～15名ほど
利用教材	<p>【のびのびジャンプ】</p> <p>無学年式の教材で 生徒の理解レベルに合わせた 学習を行った。 教科は国語と算数。</p>	<p>【生徒持参教材】</p> <p>主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。</p> <p>【コーチ用意教材】</p> <p>必要と思われた生徒に対しては、 コーチやROBEで用意した教材 にて学習を行った。</p>
学習の様子 や成果	<p>発達や学習の特性を持った生 徒に対しては、面談等を実施 した際に保護者、コーチ、本 人と今後の勉強方法を話し合 い、お互い納得の行く勉強方 法で学習支援を行った。</p>	<p>コーチと生徒のマッチングを極力 固定化するようにして信頼関係 を築き、勉強を前向きに行うこ とや、進路相談や悩み事などを気 楽に話せる環境作りを行った。こ れによって、重大な悩み事等を早く キャッチできるようになり、多く の生徒の悩み事を解決できるよう になった。</p>



竹園教室の様子



谷田部教室の様子

B：谷田部教室	
運営形態	つくば市子ども未来課との協働事業。 「つくば市こども青い羽根学習会」の枠組みでの運営。
学習時間	<p>毎週火曜日、木曜日</p> <p>18:30～19:30 授業前半 19:30～20:00 こども食堂 20:00～20:50 授業後半</p>
	<p>小学生クラス</p> <p>中高生クラス</p>

指導スタイル	コーチ1人で、 児童・生徒を2人～4人 見る個別指導方式。	コーチ1人で、 生徒を1人、ないしは2人 見る個別指導方式。
1回あたりの 生徒の 参加人数	10～15名ほど	8～15名ほど
1回あたりの コーチの 参加人数	3～4名ほど	6～10名ほど
利用教材	<p>【のびのびジャンプ】</p> <p>無学年式の教材で 児童・生徒の理解レベルに合 わせた学習を行った。 教科は国語と算数。</p>	<p>【生徒持参教材】</p> <p>主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。</p> <p>【コーチ用意教材】</p> <p>必要と思われた生徒に対しては、 コーチやROBEで用意した教材 にて学習を行った。</p>
学習の様子 や成果	<p>集中力が続かない子も多く、 まずは学習習慣を身に着ける ことを目指した。</p> <p>また、定められた行動を時間 に沿って行うこと、他の生徒 に迷惑がかかるとはどういう ことか、といった社会におけ る普遍的なルールの習得にも 力を入れた。</p> <p>疲れている児童・生徒が、学 習に戻るまでの間に休憩等に 利用できるスペースを部屋を 仕切って一時的に設けた。</p> <p>学習においては表面的な理解 で終わらず、本質的理解を 目指し、応用的な問題にも対 応できる力の習得を目指し た。</p>	<p>隣の子と私語をしてしまうことを 減らすため、可能な限り各生徒に 担当コーチをつけたり、配席を工 夫して勉強に集中できる環境の設 計に力を入れた。</p> <p>生徒の勉強への興味を保持するた めに、本、プリントなども取り入 れた。学習会をより意味のある時 間にするために、コーチにも生徒 にも、限られた時間をどう最大限 活かすかを常に意識してもらい学 習支援に取り組んだ。</p>

両教室ともボランティアコーチの熱意が高く、児童・生徒それぞれに合った学習支援をボラン
ティアコーチとともに探っていくことができた。

5、自主事業の学習支援について

つくば市との協働事業でない、自主での学習支援事業も下記の通り行った。



万博教室（小中学生合同）の様子

C：万博教室（小中学生合同）			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 時間帯や場所の都合で竹園教室・谷田部教室に来られない子ども たちが主な対象であった。		
学習時間	毎週土曜日 10:00～12：00	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE 006, 005, 003
指導スタイル	コーチ数人で児童・生徒を8名ほどに対応。 担当する児童・生徒を決め、学習を支援。 コーチ1人で1～2名の児童・生徒を見た。		
	人数が限られているので小学生クラスと中高生クラスのようなクラ ス分けは行わなかった。		
生徒の 参加人数	1回あたり4名から10名ほど		
コーチの 参加人数	1回あたり3～8名ほど		
利用教材	【のびのびジャンプ】 無学年式の教材で 児童・生徒の理解レベルに合 わせた学習を行った。 教科は国語と算数。	【生徒持参教材】 主に学校のワークブックや、 学校で出されたプリントなど。 【コーチ用意教材】 必要と思われた生徒に対しては、 コーチやROBEで用意した教材 にて学習を行った。	
学習の様子 や成果	子どもの数が少なく、また、来る児童・生徒とコーチはほとんど決まっているので、比較的毎回同じマッチングが可能になり、お互いの信頼関係を築きやすくなった。	少人数という環境を活かし、勉強で分からない所を質問しやすくなる他、生徒同士で勉強を教えあつたりと和気藹々の雰囲気を作り、仲良く学習することができた。	
D：万博教室（受験対策及び中高生レベル別学習支援） 【①中2ハイレベルクラス】			
運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 テストの得点、進学に対して意欲がある生徒限定。		
学習時間	月～日曜日	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE005, 006, 003 みどりの駅前教室
対象	中学2年生（8年生）		
指導スタイル	中2ハイレベルクラス：竹園高校等の難関校に合格できる 確かな実力を身に付ける。（在籍：2名）		
1回あたりの 生徒の 参加人数	4名ほど		
1回あたりの コーチの 参加人数	1名(科目ごとの担当制)		
利用教材	独自に用意した教材。主に市販のもの。 生徒によっては、学校の教科書やワークにより指導を行う。		

学習の様子 や成果	<p>【総括】 学習に対して意欲的な生徒や、自分の将来の夢に向かって努力する 意思がある者のみ存在しているため、全体的に前向きに学習できて いる。 現実の公立高校入試や大学一般入試における過酷な現状を踏まえ、5 教科 450 点以上を目指す指導を行った。 結果として、全体的な成績の底上げに繋がり、テストで得点できる ことによって自己肯定感の向上に繋がったと思われる。</p> <p>①中2ハイレベルクラス（在籍2名）中だるみしやすい中2の段階 から学習習慣をつけることにより、難関高→難関大に合格するため 基礎学力の定着を目指す。 （指導方針） ・成績を上げるのに時間がかかる英語・数学を中心に土台を固めつ つ、理科・社会・国語も満遍なくフォローしていく。 ・基礎学力の定着を図るとともに、他の受験生と差がつく、レベル の高い問題を中心に授業を行う。 ・学校の進度に関係なく先取り学習を行うが、内申が関係する定期 テストの10日～2週間前は、テスト対策を中心に実施する。 ・各教科、学校の授業が復習となるよう、先取り学習を実施する。 （学習の様子） 毎回の授業を大切に、非常に高い集中力で、真面目に、ひたむきに 勉強と向き合えた。 （指導成果） Aさん（第8学年内申点：44点／45点） 2022年7月実力テスト448点／500点（学年4位）→20 23年1月茨城県学力診断テスト459点／500点（学年6位） →2023年3月実力テスト445点／500点（学年5位） Bさん（第8学年内申点：39点／45点） 2022年7月実力テスト363点／500点（学年108位）→ 2023年1月茨城県学力診断テスト387点／500点（学年9 9位）→2023年3月実力テスト369点／500点（学年70 位）</p>			
	E：万博教室（受験対策及び中高生レベル別学習支援） 【中3ハイレベルクラス、中3基礎クラス】			
	運営形態	NPO 法人居場所サポートクラブロベにて独自に無料塾を実施。 テストの得点、進学に対して意欲がある生徒限定。		
	学習時間	月～日曜日	場所	万博記念公園駅前 X-STAGE005, 006, 003 みどりの駅前教室
	対象	中学3年生(9年生)		
指導スタイル	<p>1回の授業でコーチ1～4人で生徒を2～6名ほどに対応。 ・小人数制と担任制を採用し、一人一人の生徒の学力や性格に応じ たきめ細やかな指導を行う。 ・中3生のクラスについては、学習レベル別、教科別のクラスに分 け、志望校に応じた指導を行う。 ・コーチごとの得意分野によって指導する科目を分け、専門性をも って指導を行う。 ・オンライン授業も取り入れる。 ・「分かるまで」「できるようになるまで」「誰も置いて行かない」 「一人ひとりの、将来へつながる指導を重視する」方針で指導。</p>			

	<p style="text-align: center;">＜中学生クラス＞</p> <p>①中3 ハイレベルクラス：水海道第一高校等の難関校に合格できる確かな実力を身に付ける。（在籍：3名）</p> <p>②中3 基礎クラス：偏差値 45～50 程度を目標とし、生徒の学力に応じた学習支援を行う。（在籍：3名）</p>
1 回あたりの生徒の参加人数	2～6 名ほど
1 回あたりのコーチの参加人数	1～4 名ほど
利用教材	<p>独自に用意した教材。主に市販や、自作のもの。</p> <p>生徒によっては、学校の教科書やワークにより指導を行う。</p>
学習の様子や成果	<p>【総括】</p> <p>学習に対して意欲的な生徒や、自分の将来の夢に向かって努力する意思がある者のみで在籍しているため、全体的に前向きに学習できている。</p> <p>一部、学習に遅れがあり、学校の授業に十分についていけない生徒も在籍しており、そういった生徒達に対しては、授業のフォロー、スモールステップ指導の実践を行った。</p> <p>難関校を目指す生徒に対しては、5 教科 400～450 点をを目指す指導を行った。また、国語、数学、理科、社会、英語と各コーチの得意分野をもとに、責任あるきめ細かな指導を試みた。</p> <p>志望校選択に際して、生徒との話し合いの中で、納得のいく情報の提供、様々な視点による選択方法の提供、生徒一人一人の環境や特性、客観的見解を通し総括することで、各生徒がベストな選択を行い、納得して第一志望とできる高校を選択することで、高校入学後も有意義な学生生活、学習を継続できるよう心掛けた。</p> <p>これらの結果として、勉強の意義、面白さを実感してもらうとともに、全体的な成績の底上げに繋がったと思われる。</p> <p>生徒自身が自分の課題と向き合うこと、今まで出来なかったことをしっかり実践させること、また、結果としてテストの得点が上昇することで、自己肯定感の向上に繋がったと思われる。</p> <p>①中3 ハイレベルクラス（3 名在籍）難関高に合格するため、基礎学力を定着させるとともに、思考力問題にも対応できる学力を身に付ける。クラス内での学力差、得意科目の差、志望校の性質に差があったため、各コーチの個別指導も多々行うことで、効果的な指導を実践した。</p> <p>A さん：水海道第一高校普通科合格（本番の点数：400 点/500 点） 年間平均得点（定期テスト、実力テスト）約 400 点 茨統統一テスト（模試）7 月時点：316 点→1 月 429 点。 つくば秀英高校：441 点/500 点の高得点で S コースに特待合格。 親子関係に軋轢を持ちつつも、塾で勉強を行うことで、穏やかな時間を過ごし、成績も上昇。受験期には親御さんより感謝の言葉も聞かせて頂くことができた。</p> <p>B さん：土浦第三高校普通科合格（本番の点数：336 点/500 点） 年間平均得点（定期テスト、実力テスト）約 300 点 茨統統一テスト（模試）8 月時点：240 点→1 月：302 点 苦手としていた数学、理科について冬以降果敢に取り組み、理系科目、勉強そのものを楽しく感じられるようになったとの声を得た。 本番直前まで諦めずに成績を上昇させ、合格を勝ち取ることができた。</p> <p>C さん：青丘学院高校合格。（本番の点数：非公表） つくば秀英高校：256 点/500 点にて合格。 国際的な教育に興味があり、自身でも進路をよく調べ、全寮制である青丘学院高校に合格。難関に果敢に取り組む姿勢を身に着け、受</p>

	<p>験後は語学の勉強にも励んでいるとのこと。</p> <p>②中3基礎クラス（3名在籍）高校の選択肢を広げる指導。コーチ間で都度分担を行うことで、主に個別指導を実践。</p> <p>Dさん：伊奈高校合格（本番の点数：253点/500点） つくば秀英高校の不合格（200点）を経て、なお本人の強い意志のもと、伊奈高校受験を決行。受験期には大量の問題を解いてくる等、苦しい中でも泣き言を言わず最後まで粘り続けた結果、特に数学、社会で飛躍し、第一志望校に合格。</p> <p>Eさん：守谷高校合格（本番の点数：200点/500点） 東風高校、つくば国際大学附属高校合格。 7月時点において、実力テスト70点台/500点（数学：2点）から、守谷高校に向けて頑張りたいとのことで、1週間でワークを完遂する等、今まで見られなかった努力を発揮。万博教室も本人からの申し出で参加。本番では1科目も20点を下回ることなく、合格。</p> <p>Fさん：石毛紫峰高校合格。 冬前～参加。東風高校合格。5教科100点程度の成績から、担当コーチと二人三脚で大変努力を重ね、課題もしっかり遂行することで、無事に合格。</p>
--	--



イベントの数々

6、イベント・生きる力教室について

学習会単独のイベントとして、折に触れ様々なものを開催した。大きなイベントとしては、助成金を得て、参加者を募っての3泊4日の佐木島ツアーを夏休みに開催した。子ども達やコーチと子ども食堂の皆様との交流会（ケーキのデコレーション）、ドローン体験（吉田様）、食育かるた大会も開催した。クリスマスイベントとしては、ボッチャ体験（パソナ様）、ゴスペルナイト（SDG様）も実施した。また、中井聖先生による占いコーナーも随時設けた。

非認知能力の向上を目的として「生きる力教室」を主に竹園教室と谷田部教室にて開講した。月に1回の目安で教科書だけでは学べない内容の習得を試みた。

生きる力教室 タイトル	内容	方法
ここからタイム 合計4回実施。	性についての授業で、自分の「こころ」と「からだ」に向き合った。家族計画、デリケートゾーンやノーと言うことの大切さについて学んだ。	外部講師、はぐ♡ラボ代表の中井聖さんを招聘し、講義を行ってもらった。
マネー講座 合計4回実施。	お金との付き合い方を学んだ。進学にかかるお金や奨学金の実際やお小遣いに関わるあれこれを学んだ。	はっぴーマネープランニング代表の小峯洋子氏を招聘し、特別講座を行った。
睡眠講座 合計3回実施。	睡眠の重要性と睡眠の取り方によって効率的な学習効果が得られることを学んだ。	筑波大学医学部の教授や先生・学生を招聘し、講義やワークを行ってもらった。
自衛隊のお仕事紹介 合計3回実施。	自衛隊には、世の中のほとんどの職種が含まれていることと、仕事内容の紹介を受けた。	自衛隊から講師に来て頂いて紹介してもらった。
「海の絵プロジェクト」 合計2回実施。	情操教育という位置づけで、各自のイメージする海をテーマとして、自由に絵を描いてもらった。	ご寄贈頂いたクレヨン、色鉛筆、絵の具、画用紙を用いての自由な作品作り。
「これが私」のワークショップ 合計2回実施。	ワークショップとして、自分についてイメージすることばを付箋紙に書き出して、それらの関係性から本当の自分を探った。	備瀬コーチ（早稲田大学）を招聘し、講義とワークショップを行ってもらった。



生きる力教室

7、コーチ研修について

ボランティアコーチに対し、①学習会としての意志の統一②現場の課題の確認とその解決策の考案を主たる目的としてコーチ研修を行った。
研修内容は以下の通りである。

実施日	参加人数	研修内容	成果
7/19	16 人	ROBE の歴史と理念等を確認するとともに、つくばこどもの青い羽根学習会での目的を再確認した。また、学習会で留意すべき点の確認した。元吉先生から子ども達への接し方に関わる講演を頂いた。	生徒のちょっとした変化や言動も重要なサインの場合があるので共有することの重要性の確認ができた。
10/11	20 人	ROBE つくば学習会の指針の再確認等を行った。 臨床心理士による「トラウマ・インフォームド・ケア」の講演会、事前アンケートに基づく質疑応答、自由な意見交換会を行った。	ボランティアコーチとともに学習会を進めて行く上での共通認識を改めて確認することができた。
1/10	9 人	ロベの方針説明と事前アンケートへの回答を行った。互いを良く知るための自己紹介の時間や自由な意見交換の時間を長めに設けた。	結果的に少人数での開催となり、全ての参加者との間で質疑のキャッチボールを行う事ができ、疑問点の解消に繋がった。

8、食育支援について

計 10 の団体と連携し、子ども食堂を行った。各子ども食堂チームからメンバーを招いて、子ども達やコーチとの交流会（ケーキのデコレーション）を企画した。
また、餃子の王将様からの餃子弁当のご寄付、ドミノピザ様からのピザのご寄付、その他様々な皆様からの食材やお菓子等のご寄付も頂き、子ども達のために有効に活用させて頂いた。

◎効果

食事前の手洗いの勧め、SDGs の観点からの食べ残しを減らすために少なめのプレートを作って頂いたり、たくさん食べられない生徒からの事前の取り分け、感謝して頂き極力無駄にしないことや、好き嫌いの激しい生徒でも手作りの食事によって好き嫌いを減らすことができた事も含めた食育指導ができた。

コーチと一緒に食事をする事で“心の栄養”の補給となった。

孤食が当たり前だったり、インスタント食品ばかり食べている子たちにとって、つくば学習会に来る楽しみのひとつとなった。また、各団体へ、さまざまな方、団体様から頂いた寄付物品を渡すハブとして機能した。感染症拡大防止の観点から衛生的環境づくりを徹底した。



9、今後の課題

【生徒に対して】

つくば学習会での課題としては、特に小中学生の中には勉強が苦手な生徒、やる気はあっても勉強を頑張れない子も多くいて、環境や特性が多様な中で、職員、ボランティアコーチがどれだけ生徒に寄り添い、居心地の良い環境を継続的に提供してあげられるかが課題になっている。

また、特に高校生の中には、進路の悩みや学校でのトラブルを抱えている生徒が少なからずいるので、気軽に何でも相談できる居場所機能を今後も持ち続けることが大切である。

【ボランティアコーチに関して】

しっかり学習してもらうためには個別指導が望ましいが、その実現のためにはボランティアコーチの人数が不足している。無料塾の活動がもっと広く知られコーチ人数が増えるためには、機会を捉えての告知活動や SNS の活動報告、HP にも引き続き力を入れていく必要がある。

また、ボランティアコーチの指導力も問われている。立ち歩いたり騒がしくしていても強く注意できない、模範解答の書き写しのような意味のない作業を看過してしまう、子どもの気持ちに寄り添えていないといった例が挙げられる。ただし、通常の学習塾の様にカリキュラムやプログラムに沿って形式通りに進めることが難しいことも多いため、求められる柔軟性の難易度は高い。その子にはどのような支援が必要かを見抜く分析力が問われている。現場からは学習支援と居場所支援の両方の機能を考えたとき、どこまで勉強に向かわせるかの配分が難しい生徒が増えている。

学生コーチも多い中でやむを得ないことであるが、生活や仕事の状況変化によって多くのコーチが1～2年、場合によっては数か月で現場を離れてしまう。生徒の中にはどうせコーチはいなくなるんだから関係を築いても仕方がないと、コーチの名前も覚えていない生徒もいる。少しでも改善を図るために各人の名札の着用または設置を励行した。引き続き、コーチの方にも続けたいと思ってもらえるような雰囲気や体制を作り維持して行くことが大切である。

【子ども食堂について】

現在、食事提供は10団体でのローテーションをお願いしているが、月に16回の実施日に対して食事を提供して下さる団体数が不足している。授業や部活が終わってから学習会に来る生徒にとって、食事は貴重なエネルギー源である。21時近くまで学習時間は及ぶので、どの子にも空腹に耐えながら学習するように思いはさせたくない。

生徒とコーチの人数は以前よりも増加しており、各団体にかかる負荷も高まっている。一人でおにぎりを20～30個作って頂いたこともあった。それに応じて各団体の食材費の負担も高くなってきている。2022年度はつくば市から子ども食堂に対してある程度の資金援助を頂いたが、引き続き多くの団体に実費での負担をして頂いている。

ハラルの子、アレルギーのある子、人の手が触れたものを食べられない子といった生徒の特性に対する対応もあるし、SDGsの観点から食べ残しを減らすために、少なめのプレートを作って頂いたりすることもあり、工程がやや煩雑になってきているが、皆様の多大な貢献によって成り立っている。

10、むすび

現在、日本の子どもの6人に1人は貧困状態にあると言われている。貧困状態の家庭では、家事に追われたり、塾に行けなかったり、親がずっと仕事で家に勉強を教えてくれる人がいない、という状況に置かれている。すなわち学習に遅れが生じ、学校の進度についていけなくなり、最後には子供たちは自信や希望を失ってってしまう。

そして、学歴と年収には強い相関関係があることは統計上からも明らかになっている。物事を吸収する意欲を失ったり、頑張ることにネガティブな感覚を持つようになった子は、将来は多くの場合低収入になってしまう。

そのようにして、「貧困の連鎖」が現代日本では横行している。

本無料塾の最大の目的は、「貧困の連鎖の断絶」である。

学習支援により貧困の連鎖が断ち切れ、あらゆる家庭の子どもたちがのびのびと暮らせる世界を実現し、ここで学んだ子供たちが社会に出て、活躍できる大人に成長してほしい。その世界に一步でも近づけるよう、日々できることを一所懸命にしていける所存である。